

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和4年3月31日時点】

団体名		公益財団法人吹田市国際交流協会				所管部室（課）名		都市魅力部 文化スポーツ推進室				
所在地		〒565-0862		吹田市津雲台1丁目2番1号								
設立年月日		平成3年3月12日			代表者職・氏名		理事長 近藤 佐知彦					
基本財産		200,000,000円		①本市出資金（本市の出資割合）		円（ %）						
				②本市出捐金（本市の出捐割合）		200,000,000円（ 100 %）						
設立目的	吹田市と連携をはかりながら市民主体の国際交流活動を進めるとともに、地域に根ざした国際相互理解や国際化に資する事業を推進することにより、異なる文化や価値観を有する人が安心して暮らせる人権尊重を基調とした地域社会づくりに寄与することを目的とする。											
事業内容	(1) 国際理解及び国際化に関する啓発及び研修 (2) 市内に居住又は滞在する外国人に対する支援 (3) 市民による国際交流活動及び国際協力活動に対する支援 (4) 国際化の担い手の育成に関する事業 (5) 国際交流に関する情報や資料の収集及び提供 (6) その他法人の目的を達成するために必要な事業				（具体的な事業内容）							
					行政・国際交流情報の収集及び発信 / ボランティア講座/ 語学教室 / 異文化理解、啓発事業 / 子ども国際理解事業 / 防災・災害事業 / コロナ禍の食料配布事業 / 日本語教室事業 / コミュニティ通訳ボランティア同行事業 / コミュニティ通訳スキルアップ事業 / 地域事業への外国人の参加促進事業 / 外国にルーツをもつ子どもの学習支援事業 / 子育て中の外国人支援 / 文化庁ほか助成事業など							
		合計（市職員及び元市職員以外も含む。）						合計（元市職員以外も含む。）				
				うち市職員			うち元市職員					
役員数 （人）	理事 （取締役）	常勤	0	0			0	職員数 （人）	常勤	3	0	
		非常勤	8	0			0		再任用(※1) 常時勤務	0	0	
	監事 （監査役）	常勤	0	0			0		再任用(※1) 短時間勤務	0	0	
		非常勤	2	0			0		非常勤	0	0	
65歳以上の役員数(※2) （人）		5		/		0		臨時 雇用員	6	/		
評議員 （人）		12		0		0		65歳以上の職員数 （※2）	0		0	
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。（いずれかに○）						該当 ・ 非該当						
【該当する場合のみ記載】内容												
元市職員に対して退職金を支給している。（いずれかに○）						該当 ・ 非該当						
【該当する場合のみ記載】内容												

※1 再任用職員とは、60歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和3年度決算】

団体名		公益財団法人吹田市国際交流協会		所管部室(課)名		
				都市魅力部 文化スポーツ推進室		
財務状況(円)	損益計算書	総収入	31,814,929	貸借対照表	資産の部合計	215,195,704
		(うち市受入金)	10,228,600		負債の部合計	13,056,326
		(その他)	21,586,329		(うち有利子負債)	0
		総費用	44,051,468		正味財産合計	202,139,378
		経常損益	△ 12,236,539		(うち一般正味財産)	1,958,441
		当期損益	△ 12,236,539			
市から団体への支出(円)	主要内容、算出根拠等					
	フロー	補助金	8,000,000	吹田市国際交流協会事業補助金		
		委託料	2,228,600	在住外国籍市民のための日本語教室 行政通訳窓口同行業務		
		指定管理料				
		その他				
		計	10,228,600			
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金(出損金)	200,000,000	吹田市出捐金		
		その他				
		計	200,000,000			

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間：令和3年4月1日から令和4年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部 文化スポーツ推進室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び 人事管理	規程等を適切に整備している。	◎	・規程の整備や労務管理は、随時社労士と相談しながら適切な対応に努めている。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	○	・事業規模に対して、適正な体制づくりに努めた。人件費の削減も図ったが、コロナ禍で通常以上の業務対応が必要だった。
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	○	・採用は、事業規模や経営状況に応じ募集をした。必ず公募とし、採用は職員と理事長または副理事長の複数によって公正性かつ透明性を確保して実施している。
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	・理事・評議員・監事は、全員報酬及び退職金はない。
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	・職員給与は、規程に基づき適正に支給している。
	職員研修の充実に努めている。	◎	・他機関の関連事業や研修に積極的に参加し、組織内での職員研修も積極的に実施した。
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	・事業のふりかえり会等を実施し、効果的・効率的な運営に努めた。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	・学習者やボランティアにアンケートを実施し、事業の方向性を客観的に捉えるよう努めた。
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	△	・コロナ禍で自主事業収入が著しく減収し、例年どおりの協会運営が難しくなった。中・長期的な経営計画をあらためて検討する必要がある。
	自主財源の確保に努めている。	◎	・自主事業や他機関からの助成金の獲得等自主財源の確保を図っている。
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	・業務の効率化と各種経費の見直しに努めている。
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	・顧問の公認会計士と相談しながら、財務管理を適正に行っている。
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	・毎年4月に外部の専門家による会計監査を実施している。
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	・経営状況、事業計画、事業報告、役員名簿、議案概要は常時ホームページで閲覧ができるようにしている。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	・昨年度リニューアルしたホームページの運用において、外国籍市民やボランティア等に対し必要な情報を適切に発信することに注力した。
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	・個人情報保護の規定を設け、適正な措置を講じている。規定は、弁護士に相談している。
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間:令和3年4月1日から令和4年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部 文化スポーツ推進室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和3年度目標	令和3年度実績	(参考) 令和2年度実績
	成果指標			
市民主体の国際交流・国際交流	機関紙SIFATimes発行部数	7,500部(4回) (昨年度並み)	7,500部(4回)	7,500部
	ホストファミリー交流家庭数	32家庭 (令和元年度の半数)	0家庭	0家庭
国際化推進の人づくり事業	語学教室参加数	516人 (令和元年度並み)	415名	452名
	異文化理解・啓発事業数	13回(昨年度並み)	34回	13回
在住外国人の支援	日本語学習事業の参加者数	3,225人 (令和元年度並み)	3,991人	2,542名
	コミュニティ通訳ボランティア同行事業	123件(昨年度並み)	128件	123件

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容

(3) 今後の取組方針

※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

<ul style="list-style-type: none"> ・吹田市の「多文化共生指針(2017)」に沿って、積極的に多文化共生社会の推進のための事業に取り組む。 ・公的交付金や民間助成金等の申請・確保、その他地域事業者の協賛金や広告収入の確保等に努め、既存事業の強化と喫緊の社会課題である防災減災事業や新規事業である市受託事業「吹田市多文化共生ワンストップ相談センター」の充実・強化を図る。 ・支出の抑制を図りながら、事業の充実を目指す。 ・財政状況改善のために、事業の効率化をはかる。令和4年度は、PC周辺機器と会計ソフトのリース終了時期を迎えるので、契約の見直しと複合機の入替、公益会計ソフトの新規導入によって、運営費の削減と労働効率を向上する。 ・研修や外部の専門家による評価や助言を通して、組織の基盤強化を図る。 ・吹田市や地域住民のニーズに的確に応えられるように、研修を通して職員の人材育成に努める。

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間: 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで】

団体名	公益財団法人吹田市国際交流協会	所管部室(課)名
		都市魅力部 文化スポーツ推進室

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	協会の広い人脈や豊富な情報を活用しながら、市の委託事業や補助事業、自主事業を展開しており、吹田市多文化共生推進指針に基づく施策の推進に寄与しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	◎	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、オンライン形式に移行し事業を継続するなど、効果的かつ効率的に、外国籍市民等への支援に寄与するサービスを提供しているため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	◎	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

規程の整備や労務管理は適正に整備されている。組織運営や人事管理についても、採用は必ず公募するなど、公平性・透明性が確保されている。
 財務管理については、事業の再編や整理等を行うことにより、中・長期的な経営計画の見直しが必要であると認識しており、更なる経費抑制や財源確保の方策について検討されたい。
 また、ホームページでの経営状況・事業計画・役員名簿・議案概要等の公開や、通訳同行事業等における倫理規定の整備など、情報公開や個人情報の保護については、適正な措置が講じられている。
 事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、オンラインでの対話クラスや講座を実施するなどの工夫により事業を継続させたことから、市民ニーズを捉え現状に合った事業を行っているとして、高く評価している。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

市内の外国籍市民数の増加等、状況は年々変化し続けているため、市からの委託事業や補助事業等において、事業の再編を検討し、今後の多文化共生推進事業のあり方について再考する必要がある。
 また、市と協会が連携し、外国籍市民等の多様化や、災害時の支援体制の構築等、現状の課題に対応していくための体制を整えるとともに、令和4年10月に「吹田市多文化共生ワンストップ相談センター」を開設し、外国籍市民等への支援の充実を図る。
 今後も、これまで協会が蓄積させたノウハウを活用し、市と協会が連携することで、外国籍市民等全ての人が安心して住むことができるまちづくり、多文化共生社会を推進する。